

されている。(図三七)頭文字がKという印刷機製造業者は金津父子、國友震一郎、加東活版製造所がある。國友の新聞広告の挿絵(図一四)は実物とは形状が違う。金津は明治一〇年ころに築地活版製造所の機械製造部において独立して金津製作所をおこした。彼の製品は秀英舎などに納められている。明治一四年第二回内国勸業博覧会には国文社のブースに足踏み印刷機ではあるが印刷機を出展している。

Kマークは金津のKとは考えられないか。調べると『東京名工鑑』東京府勸業課有隣堂明治一二年一二月刊に金津平四郎が載っているが商標は「かぎに平」のマークになっている。

大正一五年の業者名簿には金津兵四郎の次男金津金蔵印刷機械製作所と金蔵の息子の金津常光工場の広告が掲載されており、トリードマークが記されている。いずれも欧文のKをモチーフにしたデザインである。



図49 大阪片田鐵工所の広告

この文章を書いていて、まさにこの四角を四五度回転して重ねた中にKのあるマークを見つけた。それは大正四年一月と二月発行の『日本印刷界』六三号と六四号に、大阪片田鐵工所の広告で、創業明治三〇年、大阪市東大手通二丁目とある。この地は明治三年に開設された大坂活版所があった場所である。その広告にはシリンドラー式印刷機の写真があるが、明治三〇年当時は手引き印刷機をつくっていたものと推測できる。つまりこのドイツ製といわれた手引き印刷機は国産の片田鐵工所の製品で明治三〇年以降のものであったわけである。

(七) 長崎県印刷工業組合 長崎市長崎市出島町一〇番一三号
機種 アルビオン型 片田鐵工所製Kマーク付
圧盤寸法 三二〇×二四〇ミリ

資料 Kマークの付いたものはキリシタン村、島原半島南高来郡有家の有正舎にあつたものだという。田栗奎作『長崎印刷百年史』(昭和四五年一月三日刊)の口絵に掲載されている。「手引ハインド、明治初期の民間出版物はほとんどこの手動印刷機から生まれ、地方では大正時代まで使用された(南高有家・有正舎蔵)」とある。大阪活版製造所のマークのある手引き印刷機は『長崎印刷百年史』の口絵に掲載されている。九州荷札印刷が所有していたものという。Kマーク付は神戸市立博物館のものと同じと思われる。

るが柱の構造が円柱になっていて異なる。

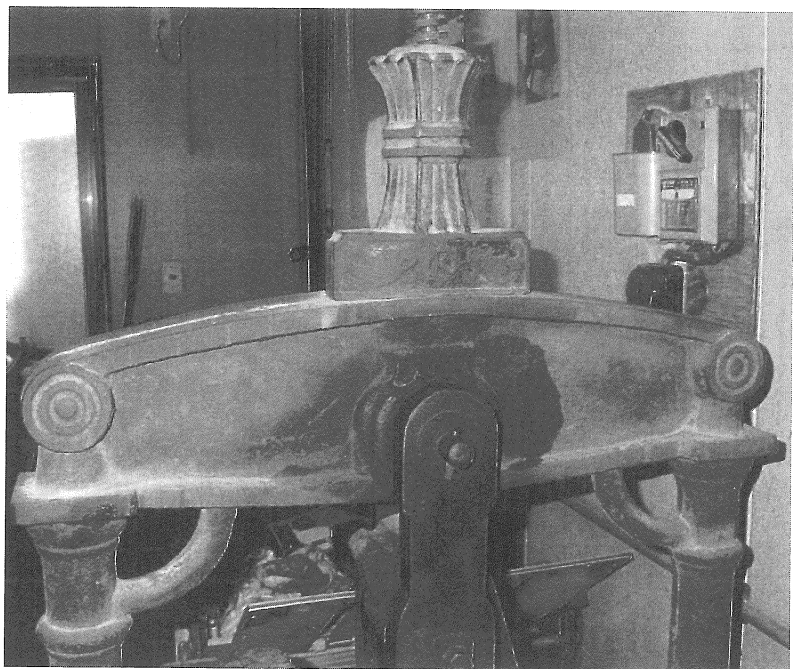


図50 長崎印刷工業組合所蔵のKマークつき手引き印刷機

(八) 長崎県印刷工業組合 長崎市長崎市出島町一〇番一三号
機種 アルビオン型 大阪活版製造所製
圧盤寸法 四四〇×三二五ミリ

大阪活版製造所のマークがある。九州荷札印刷が所有していたものである。

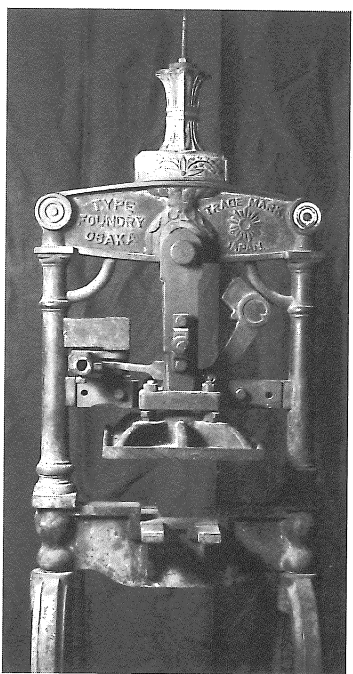


図51 長崎県印刷工業組合の大阪活版製造所製

(九) ミズノ・プリンティング・ミュージアム、
東京都中央区入船二・九・二 ミズノプリテック株式会社内
機種 アルビオン型 明治一〇年 平野Hマーク付 平野製
版盤寸法 一六〇×一〇五ミリ 名刺用か

資料 18ホ(弘化三年)、1860(万延元年)製のアルビオンプレスは、平野富二の図版のものと、特に足まわりは酷似している。平野はこの機種を模して製作したのと考えられる。(図二〇)

■国産手引き印刷機で、現存しないが手引き印刷機の図版や記録が残っているものに、下記のものがある。